

28Q-am083

ワンフロア型専用施設による OSCE 試行とその運営上の問題点

○中島 孝則¹, 佐古 兼一¹, 岩瀬 晴信¹, 高城 徳子¹, 茅野 大介¹, 窪田 洋子¹,
飯塚 晃¹, 下園 拓郎¹, 根岸 和雄¹, 村松 信¹, 中村 和男¹, 都築 稔¹,
岩田 政則¹(¹日本薬大)

【目的】本学では共用試験OSCEの実施を踏まえ、6課題をワンフロアで同時に実施できる専用施設を独自に設計し、導入した。そこで本施設を実際に使用したOSCEトライアルを実施し、その有効性ならびに運営方法を検討することとした。【方法】平成20年3月に受験生236名に対して、6ステーション8レーン、運営はローテート方式にてOSCEトライアルを行った。また同年6月には受験生146名に対して、6ステーション8レーン、ストレート（さみだれ）方式にて実施した。各試験終了後、運営スタッフならびに参加者に対してアンケート調査を行い、実施状況を確認した。【結果】ワンフロア型施設の特徴として、隣接するステーションやレーンとの距離が近いことがあげられる。これにより受験生の移動が容易となり、移動時間の短縮効果が検証された。つまり、一定時間内により多くの受験生に対して試験を行うことができる。また、ローテート方式による運営では、隣接するレーンの声や試験実施中の音もそれほど気にならないことが分かった。しかし、ストレート方式で運営を行った場合、試験開始時と終了時に不要な時間が発生し、試験を行っていないステーションから評価者同士の話し声や作業の音が入り、他のステーションでの試験実施に支障を来した。【総括】以上2回のOSCEトライアルにより、本学で導入したワンフロア型施設は、1日で多くの受験生に対して試験を行うことができること、運営方法としてはストレート方式よりもローテート方式が適していることなどが検証された。